



第5節 台風

1998年10月17日午後4時半ごろに、台風10号は鹿児島県枕崎付近に上陸した。宮崎市付近を通過し、高知県、岡山県を経て、中国地方を縦断し、日本海へ抜けた。

滋賀県では、18日未明に北西の日本海を通過したが、東へ去ってから強風が吹いた。午前1時のピワコダスJava画像を、図19に示す。

南東～南南東の風でも、鈴鹿山地を越えて近江盆地に強風が入る様子を示している。また、北小松や大津のような背後に山が控えているところでも、強い風であれば、山に向かう向きでも強風が吹きうることを示している。台風が接近する場合には、湖南から湖北へかけて、観測点の位置により一定の時間的なずれが生じていることが図から汲み取れる。

台風10号は、滋賀県の西を通過する「風は東から南回りで西から返すパターン」となっている。湖西の昔の漁師はこの風向の変化を、(イブキ スグチ カミ 西からの返し)と表現している。明け方にはいったん弱まったが、正午近くになって、北西からの吹き返しが強まっていることもわかる。

ピワコダス観測所の毎時最大瞬間風速の変化は、図20のようになった。

琵琶湖の東にある長浜や湖北町野鳥センターでは、通過前には30m/s以上の強い風を観測しているが、通過後の吹き返しは弱くなる。一方、比良山の麓にある北小松や南船路(BSCヨットスクール)の風は、オロシ風の影響で、吹き返しの風も強いことがわかる。

図21は、近江盆地に流入する南東の強い風を

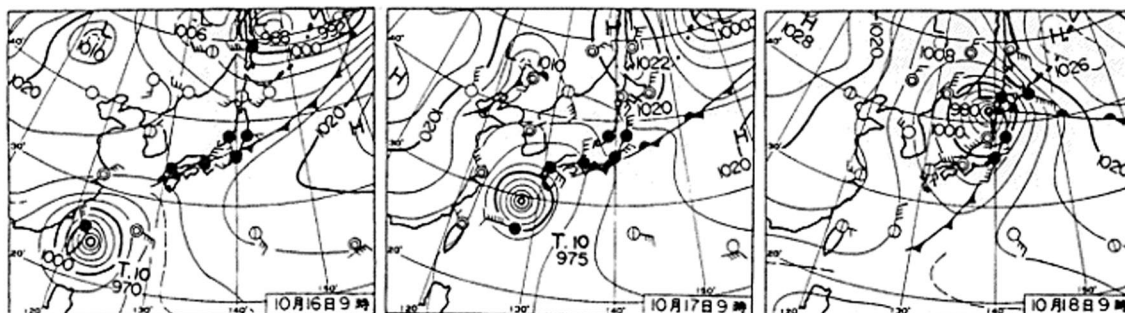


図18 地上天気図 (1998年10月16日～18日)

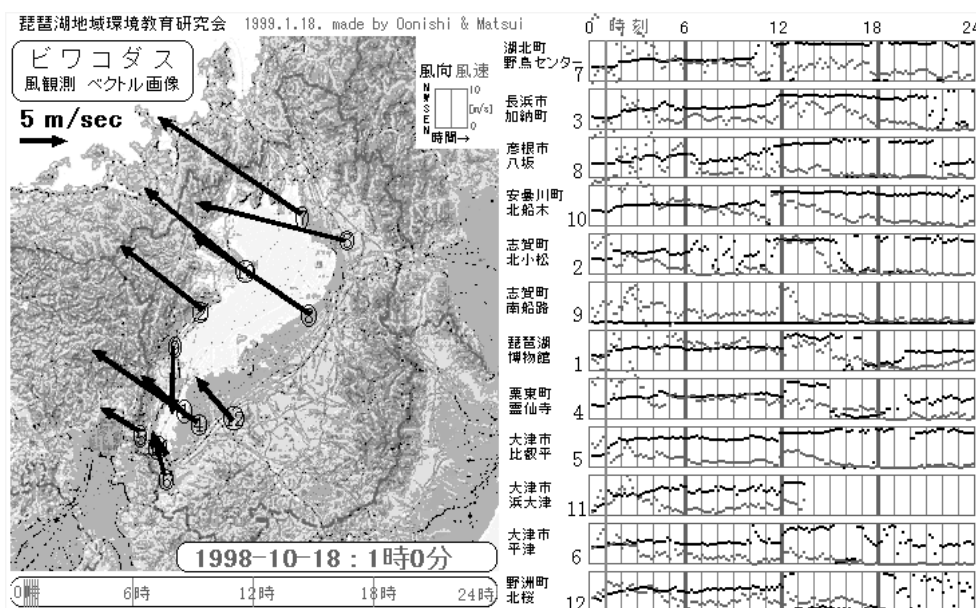


図19 台風10号のピワコダスJava画像 (1998年10月18日午前1時)(口絵6-3参照)